

●チベットアンティロープの毛から作られるシャトゥーシュ

チベットアンティロープ(別名・チル)は中国西部とインドの北西部のチベット高原に生息するウシ科の動物です。寒い地域に生息するため、アンダーコートと呼ばれる内側の毛が細く、ヒトの毛髪は1/5〜1/7しかありません。それを使った毛織物はシャトゥーシュと呼ばれ、シヨールの大きさでも指輪を通り抜けることができるほど柔らかいと珍重されています。シヨール1枚に3〜5頭のチベットアンティロープの毛が使われます。

その毛を目的に1980年代後半から商業的な狩猟が過熱しました。ほかにも家畜放牧の拡大、牧草採取のための草原の開け込み、線路建設による生息地の分断が脅威になっています。IUCNレッドリストでは絶滅危惧種に、ワシントン条約(CITES)では附属書I(国際取引原則禁止)に掲載されています。

●密猟は減少、でも市場にシャトゥーシュが

ワシントン条約締結国会議では、チベットアンティロープの保全と貿易の抑制が継続した課題になっています。2013年3月にタイで開催された締結国会議(CoP16)でも条約事務局から状況が報告されました。それによると密猟は中国西部で続いているものの、深刻だった1990年代〜2000年代初めに比べて大幅に減少したそうです。密猟に反対する努力が実ってチベットアンティロープは個体数が増えることが可能になった、という段階です。

報告には2003年にCITES事務局がチベット高原に密猟パトロールを訪問したことも述べられ、標高5000メートルの過酷な環境での中国の国家林業局職員による取締りを称賛していました。

密猟も大幅に改善されたものの、摘発されない事件があると条約事務局は見ており、近年、中東の国でかなりの差し押さえがあったとの報告がみられます。

●カシミヤ人気の陰に

高級毛織物のカシミヤは西欧諸国で人気が高く、日本でも以前よりも低価格で販売されるようになりました。このカシミヤを生産するために家畜ヤギの数が増え、放牧地の生態系が崩壊している、という研究が発表されました。

この研究はWildlife Conservation Society(WCS、米国)とSnow Leopard Trust(米国)が行い、『Conservation Biology』8月号に掲載されました。

研究によると世界に出回るカシミヤの90%は中国とモンゴルで生産されており、チベットアンティロープをはじめ、野生のヤクやフタコブラクダ、モウコノウマ、サイガ、チベットガゼル、チベットノロバ、モウコノロバ、ユキヒョウがかつて生息していた広大な高原や平原が、今はヤギなどの家畜類に占領されているそうです。

家畜ヤギが増加した結果、牧畜業者間の対立の増加、犬による野生動物の捕食、家畜をねらうユキヒョウに対する報復的な殺害、さらには野生生物が大切な御湯を変えなければなくなるなど、さまざまな悪影響が報告されています。

●大量生産、大量消費のもたらすもの

広々として生物が少なくないように見える高地の草原や砂漠にも、その地域の気候に適した生態系が成り立っています。地球上にさまざまなタイプの生態系が存在している生態系としており、多様性は生物多様性の大事な要素です。

前述のチベットアンティロープのように毛を取るために狩猟をすれば、絶滅の直接の原因になります。その一方で飼育しているヤギから抜け替わる毛をすき取るなら生物多様性に影響はないかという、多すぎる家畜は厳しい気候の中で保たれていた生態系のバランスを崩してしまいます。

柔らかいシャトゥーシュやカシミヤは、極寒の土地で生きる動物からしか得られません。大量生産、大量消費がもたらす生物多様性と地域社会への影響を、消費者として考慮することは生物多様性の保全につながります。



チベット鉄道からの風景

【参考】

- IUCN Red list チベットアンティロープ <http://www.iucnredlist.org/details/summary/15907/0>
- 環境省「シャトゥーシュを買いわないで」 http://www.env.go.jp/nature/yasei/leaflet_shitsu.pdf
- CoP16 Doc. 55 <http://www.cites.org/eng/cop/16/doc/E16-55.pdf>
- SC61-43 <http://www.cites.org/eng/com/sc61/E61-43.pdf>
- WCSプレスリリース <http://www.wcs.org/press/press-releases/victims-of-fashion.aspx>
- 和訳「JWCSワイルドライフニュース(ファッションの犠牲者:カシミヤ生産で生物多様性に危機)」 <http://wildlife.ecology-nifty.com/blog/cat37261808/index.html>

JWCS 特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO 法人格取得: 2001年
 会長: 安藤元一(東京農業大学教授) 副会長: 小川 薫(東京大学大学院特任教授) 森川 純(農学大学大学院・アフレード大学客員研究員)
 理事: 小原秀雄(女子栄養大学名誉教授) 池本桂子(NPO 法人「スズ」理事) 鈴木雅也(JWCS 事務局) 永石文明(東京農業大学農学部非常勤講師、立教大学兼任講師) 並木美砂子(帝京科学大学教授) 西原智昭(WCS コンゴ) 吉沢広祐(国学院大学教授) 山根壽一(京都大学教授)
 監事: 磯田厚子(女子栄養大学教授) 顧問: 前田好宏(中・学高校教諭)

〒180-0022
 東京都武蔵野市境 1-11-19 モット APT102
 Tel&Fax: 0422-54-4885
 E-mail: info@jwcs.org <http://www.jwcs.org>

表紙: グラビエー

JWCS通信 2013年通巻70号
 2013年12月発行
 発行人: 安藤元一
 編集: 鈴木雅也
 表紙: 土肥優子

【会費・寄付のご送金先】
 郵便振替 00160-9-715145
 加入者名 野生生物保全論研究会
 正会員年間 5000円

